

1号機R/B 3階機器ハッチ開口部 バルーンずれ事象の対応について

2015年6月12日
東京電力株式会社

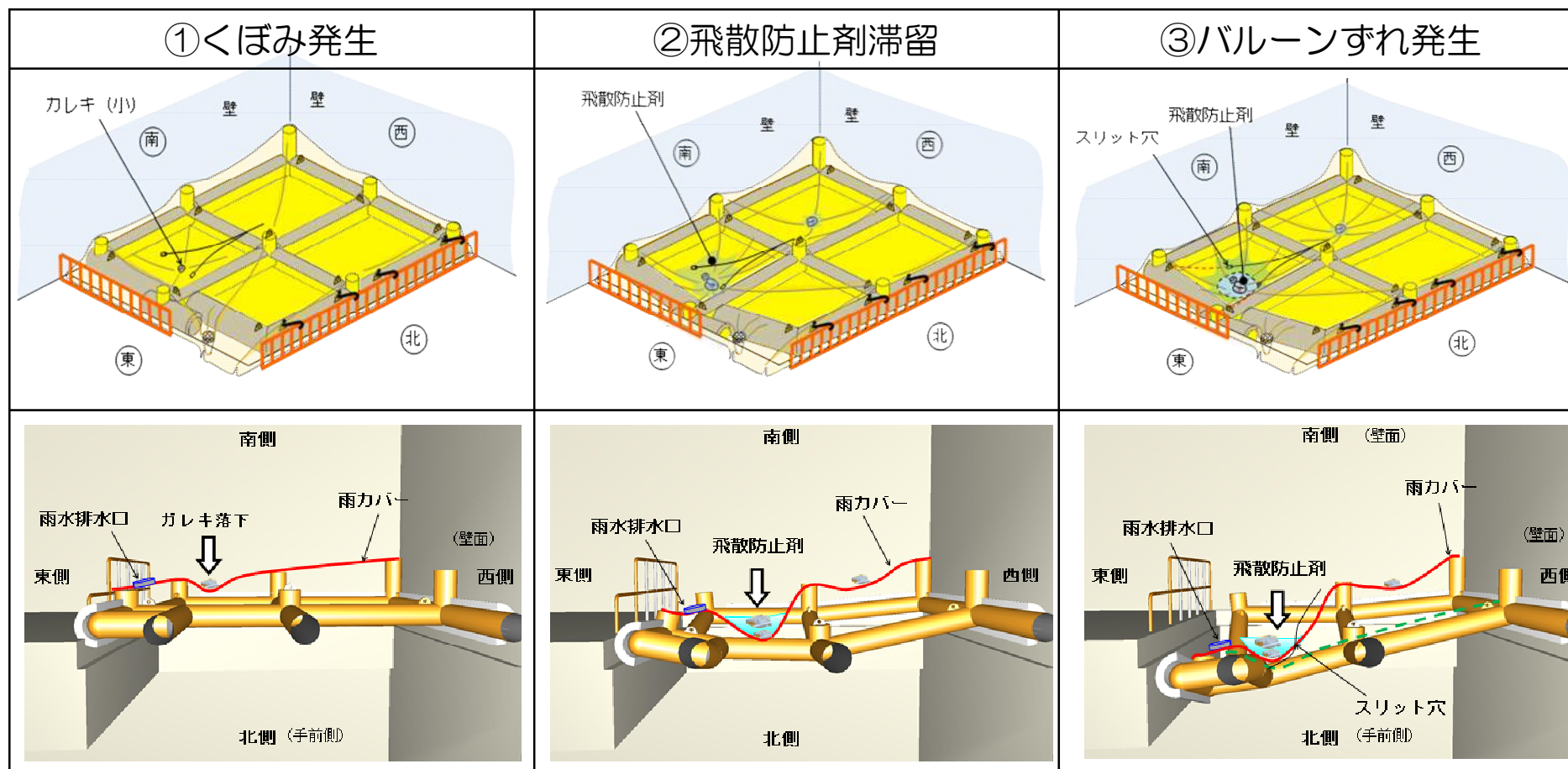


東京電力

バルーンずれ事象の推定原因

■ 推定原因

- ①バルーンを覆っていた雨カバー上にガレキが落下し、雨カバーにくぼみが発生
- ②雨カバー上に飛散防止剤が流れ落ち、くぼみ部に溜まる
- ③飛散防止剤の重みにより、バルーンの南東側からずれが発生



今後の対応について

■バルーンによる放出抑制効果

- ✓1号機からの放出量評価において、バルーンによる放出抑制効果がない場合の放出量評価値は $9.03E3 \sim 1.74E4$ Bq/hであり、バルーンによる抑制効果がある場合（ $6.63E3 \sim 1.67E4$ Bq/h）と比較すると、バルーンが無い場合の方が最大放出量において約4%増となるが、バルーン有無による差は小さい
- ✓バルーンによる放出抑制効果がない条件での1号機全体の放出量は、放出管理の目標値 $1E7$ Bq/hの約0.2%、2~4号機の放出量を加味しても放出管理の目標値の約8%（バルーンがある場合も約8%）であり、十分低いものとなっている
（バルーンによる放出抑制効果がなくなった場合、放出管理目標値に対しては約0.007%増となる）

■今後の対応

- ✓実施計画「2.11 使用済み燃料プールからの燃料取り出し設備（添付資料-7 別添-1）」においては、バルーンによる機器ハッチ開口部縮小効果を見込んだ上で、カバー解体前のダスト濃度等を用いて放出量評価を行い、放出管理の目標値以下であることを確認している
- ✓今回のバルーンずれ事象を受け、実施計画の記載をバルーンによる開口部縮小効果を見込まない評価に見直し、その際、2014/11のカバー一時解体時に得られたダスト濃度等最新データを反映した評価とする
- ✓ただし、毎月の放出量管理においては、評価の変更有無に係らず引き続き放出管理の目標値以下であることを確認する

(参考) 放出量の評価条件及び評価値

放出量＝①原子炉直上部からの放出量＋②機器ハッチ開口部からの放出量＋③原子炉格納容器ガス管理設備からの放出量

(各放出量＝濃度×流量)

	評価条件	使用した値
(1)	<p><ダスト濃度></p> <p>①原子炉直上部，②機器ハッチ開口部 建屋カバー一時開放時（2014/11）のダスト濃度</p> <p>③原子炉格納容器ガス管理設備 ガス管理設備から放出するダスト濃度（2014年度の平均）</p>	<p>①原子炉直上部 1.6E-5Bq/cm³</p> <p>②機器ハッチ開口部 2.4E-6Bq/cm³</p> <p>③原子炉格納容器ガス管理設備 4.4E-6Bq/cm³</p>
	<p><流量></p> <p>①原子炉直上部 建屋カバー一時開放時（2014/11）の蒸気発生量（評価値）</p> <p>②機器ハッチ開口部 機器ハッチ開口面積を90%縮小，二重扉・非常用扉を80%縮小，大物搬入口全閉における流出量</p> <p>③原子炉格納容器ガス管理設備 ガス管理設備からの放出する量（2014年度の平均）</p>	<p>①原子炉直上部 2.5E2m³/h</p> <p>②機器ハッチ開口部 1.0E3～5.2E3m³/h</p> <p>③原子炉格納容器ガス管理設備 2.1E1m³/h</p>
(2)	<p><ダスト濃度></p> <p>同上</p>	同上
	<p><流量></p> <p>①原子炉直上部 同上</p> <p>②機器ハッチ開口部 機器ハッチ開口面積は全開，二重扉・非常用扉を80%縮小，大物搬入口全閉における流出量</p> <p>③原子炉格納容器ガス管理設備 同上</p>	<p>①原子炉直上部 同上</p> <p>②機器ハッチ開口部 2.0E3～5.5E3m³/h</p> <p>③原子炉格納容器ガス管理設備 同上</p>